## 令和7年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18K㎡)

	学区名			TT ##	人  口			対前月増減	
				世帯数	総数	男	女	世帯数	人口
1	千		種	6, 168	9, 578	4, 780	4, 798		△ 12
2	千		石	4, 354	7, 051	3, 535	3, 516	Δ 12	Δ 14
3	内		山	6, 094	8, 299	4, 449	3, 850	41	60
4	大		和	3, 777	6, 786	3, 383	3, 403	Δ 5	Δ8
5	上		野	7, 601	15, 386	7, 511	7, 875	12	13
6	高		見	7, 740	13, 581	6, 496	7, 085	1	△ 7
7	春		岡	7, 586	11, 431	6, 073	5, 358	Δ1	△ 4
8	田		代	11, 553	22, 022	10, 536	11, 486	12	29
9	東		山	10, 480	18, 891	9, 239	9, 652	18	Δ 5
10	見		付	4, 652	8, 404	4, 222	4, 182	29	32
11	星	ケ	丘	3, 615	6, 820	3, 023	3, 797	13	32
12	自	由ケ	丘	3, 556	7, 005	3, 168	3, 837	7	1
13	富	士 見	台	6, 463	14, 744	6, 674	8, 070	Δ 12	Δ 13
14	宮		根	3, 880	7, 880	3, 624	4, 256	26	27
15	千	代 田	橋	3, 782	8, 012	3, 731	4, 281	Δ 1	Δ 6
<u></u>	種	区	計	91, 301	165, 890	80, 444	85, 446	127	125
	R6.	10. 1		89, 938	165, 482	80, 305	85, 177	105	69
対	前	年	比	1363	408	139	269	22	56
名	古	屋	市	1, 194, 796	2, 338, 873	1, 147, 886	1, 190, 987	1, 648	1, 009
愛 (		知 9.1	県 )	3, 409, 040	7, 453, 119	3, 712, 421	3, 740, 698	1, 958	△ 789

前日中の	<b>自然動態</b>				社会動態				
一門刀下ツ	出	生	死	П	自然増減	転入	転	出	社会増減
増減内訳		79		138	△ 59	1, 087		903	184

	国勢調査-	千種区人口	これまでの最大人口と最小人口(千種区)		
昭和60年	163, 762	平成17年	153, 118	最大人口	173,598(昭和50年2月1日)
平成 2年	156, 478	平成22年	160, 015		170,000 (#1141002711117
平成 7年	148, 847	平成27年	164, 696	最小人口	   146,727(平成11年4月1日)
平成12年	148. 537	令和 2年	165. 245	AX-1-7/L	140,727 (1,9211—47314)

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公 表される数値と異なる場合があります。

統計なごやweb版 http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0.htm/

## 千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

今回は令和6年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人 口の推移を見ていきます。

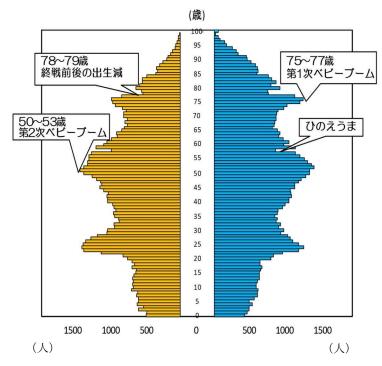
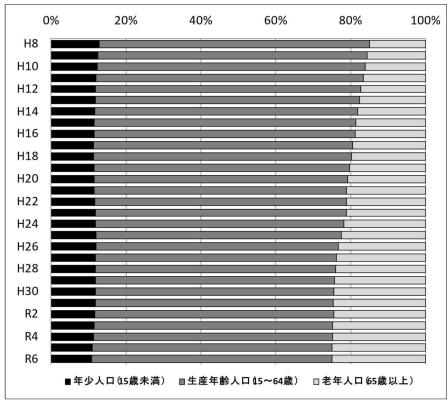


図 1:千種区の年齢各歳別人口構成(令和6年10月1日現在)

令和6年 10 月 1 日現在の千種区の人口 を年齢各歳別人口構成でみると、78~7 9歳の年代は第二次世界大戦の影響によ って、また56歳は「ひのえうま」の影響 により人口が落ち込んでいます。

また、75~77歳は第1次ベビーブー ムの影響によって、50~53歳は第2次 ベビーブームの影響によって大幅な出生 増となっています。ここまでの傾向は、全 国と同様の「ひょうたん型」の人口ピラミ ッドです。千種区の特徴として20~25歳 の人口が多く占めています。これは、千種 区に複数の大学が存在していることが影 響していると考えられます。



をピークに減少。老年人口の割合は 増加を続けています。

平成8年から令和6年の各年10 月1日現在の年齢3区分人口の割合 の推移を見てみます。平成8年と令 和6年を比較してみると、年少人口 (15 歳未満) の割合は 2.1 ポイン ト、生産年齢人口(15~64歳)の 割合は 7.8 ポイント減少したのに対 し、老年人口(65歳以上)の3割合 は 10.1 ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割

合は平成 12年まで減少傾向でした

が、以降はほぼ横ばいとなっていま

す。生産年齢人口の割合は平成7年

図 2: 千種区の年齢3区分人口の割合の推移(各年10月1日現在)